

平成 23 年 7 月 14 日

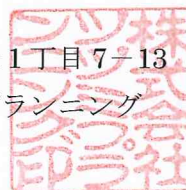
株式会社ヤマノ 御中

「カムカム錠剤」 継続摂取における 有効性試験報告書

〒810-0012

福岡市中央区白金 1 丁目 7-13

株式会社ツツミプランニング



本報告書の内容を他へ掲載する場合は当社の承認を得てください。

「カムカム錠剤」継続摂取における有効性試験報告書

1. 目的

本試験は、「カムカム錠剤」を 1 ヶ月間継続摂取することによって、抹消血流量及び血管年齢に対して、どのような影響を及ぼすかを検討した。

2. 被験試料

- 1) 「カムカム錠剤」(依頼者提供)
- 2) プラセボ (タピオカデンプン (カムカム錠剤使用基剤) 入カプセル)

計 2 検体

3. 被験者

- 1) 「カムカム錠剤」摂取被験者 : 49 歳 女性
- 2) プラセボ摂取被験者 : 46 歳 女性

計 2 名

4. 測定項目および測定機器

- 1) 血流量測定試験：レーザードップラー血流計 (Moor Instrument Ltd 製)
- 2) 血管年齢測定試験：加速度脈波計

計 2 項目

5. 測定環境

室温：24℃

湿度：48～50%

6. 測定方法

まず、摂取開始前日に、摂取前の状態を測定するため、被験者を測定室に入室させ、周囲の環境に慣れさせるために、10 分間安静にさせた。その後、血流計のセンサープローブを右手中指先に、加速度脈波計のセンサープローブを左手中指先に装着し、摂取前の状態を測定した。

翌日から、朝、昼並びに夜に被験試料を 2 粒ずつ (合計 6 粒) を、随時 200ml の水と共に摂取させ、7、14、21 及び 28 日後に、同方法で測定を実施した。

更には、好影響を得た場合、摂取を終了することによって、良好な状態を保持されるか否かを検討することを目的として、28 日目以降は摂取を中止させ、この日から 1 週間後 (摂取開始から 35 日目) に再度同方法にて測定を実施した。

尚、試験時刻は日間差を考慮して、同時刻にして実施し、測定中は被験者には測定開始から終了まで、極力動かないようにさせた。また、被験者には試験期間中は他の健康食品等の摂取を一切控えるよう指示した。

7. 結果

1) レーザードップラー計による抹消血流量測定試験結果（グラフ 1 参照）

抹消血流量においては、「カムカム錠剤」継続摂取1週間後から約1.2倍まで増加し、2週間後では、1.2倍を保持したままであったものの、3週間後から4週間後にかけて、約1.3倍にまでの増加が認められた。また、摂取を終了しての1週間後の測定結果においては、約1.3倍の血流量を保持していた。

一方、プラセボの継続摂取においては、大きな変化は認められず、試験終了の4週間後並びに摂取を終了した1週間後の計5週間後まで、摂取前とほぼ同じ血流量であった。

2) 加速度脈波計による血管年齢測定試験結果（図 1 及びグラフ 2 参照）

先ず、プラセボ継続摂取においては、試験開始から終了にかけて、50歳前後の値を保持したままであった。

一方、「カムカム錠剤」継続摂取においては、摂取前は53歳であったものの、摂取開始から経時的に低下（血管の柔軟化）し、3週間後には39歳にまで低下した。4週間後では40歳であったが、結果的に摂取前と比較して、血管年齢が低下した状態は保持されたままであった。更には、摂取を終了した1週間後についても、血管年齢が40歳と血管が柔軟な状態を保持していた。

8. 考察

過去、依頼者の提供の「カムカム錠剤」においては、朝、昼及び夜の3回の連続摂取において、抹消血流量及び血管年齢に対して、良好な結果を得たことから、今回は1ヶ月という比較的長期間を設けて、継続摂取することによって、大きな改善をもたらすことを推測し、本試験を実施した。更に今回は追加試験として、継続摂取終了して、1週間経過した場合、それぞれの結果がどのように変化するかを検討した。

その結果、抹消血流量測定試験においては、「カムカム錠剤」を摂取することによって、経時的に抹消血流量の増加が認められた。このことから、「カムカム錠剤」の継続摂取においては、新陳代謝促進等の美容的観点からの効果が期待された。

また、血管年齢測定試験においても、摂取開始から経時的な血管年齢の低下が観察できたことから、「カムカム錠剤」の継続摂取においては、血管を柔軟にする作用があると考えられ、動脈硬化症等の血管に対する疾患のある使用者については、改善作用が容易に推測された。

摂取終了後の挙動としては、1 週間経過しても、抹消血流量並びに血管年齢共に良好な状態を保持していることから、大変興味深い。この結果から、抹消血流量と血管年齢の改善は、一時的な改善ではないことが推察できると同時に、摂取を忘れた場合についても短期間であれば、ネガティブな影響はないと考えた。但し、未摂取を継続的に実行した場合は、摂取前の状態に戻る可能性も否定できないことから、当然ながら、継続摂取の実行が重要であると言える。

一方、安全性の面については、特に問題もなく、被験者からの体調不良や下痢等の報告もなかったことから、継続摂取においても安全であることが言えた。

これらのことから、被験者は各 1 名ではあるものの、「カムカム錠剤」は、抹消血流量を促進させると同時に、血管の柔軟化作用があることが示唆されたことから、「カムカム錠剤」の継続摂取は、健康保持等に大きく寄与することが考えられた。

以上

グラフ1 各被験試料継続摂取における
抹消血流量測定結果グラフ(各N=1)

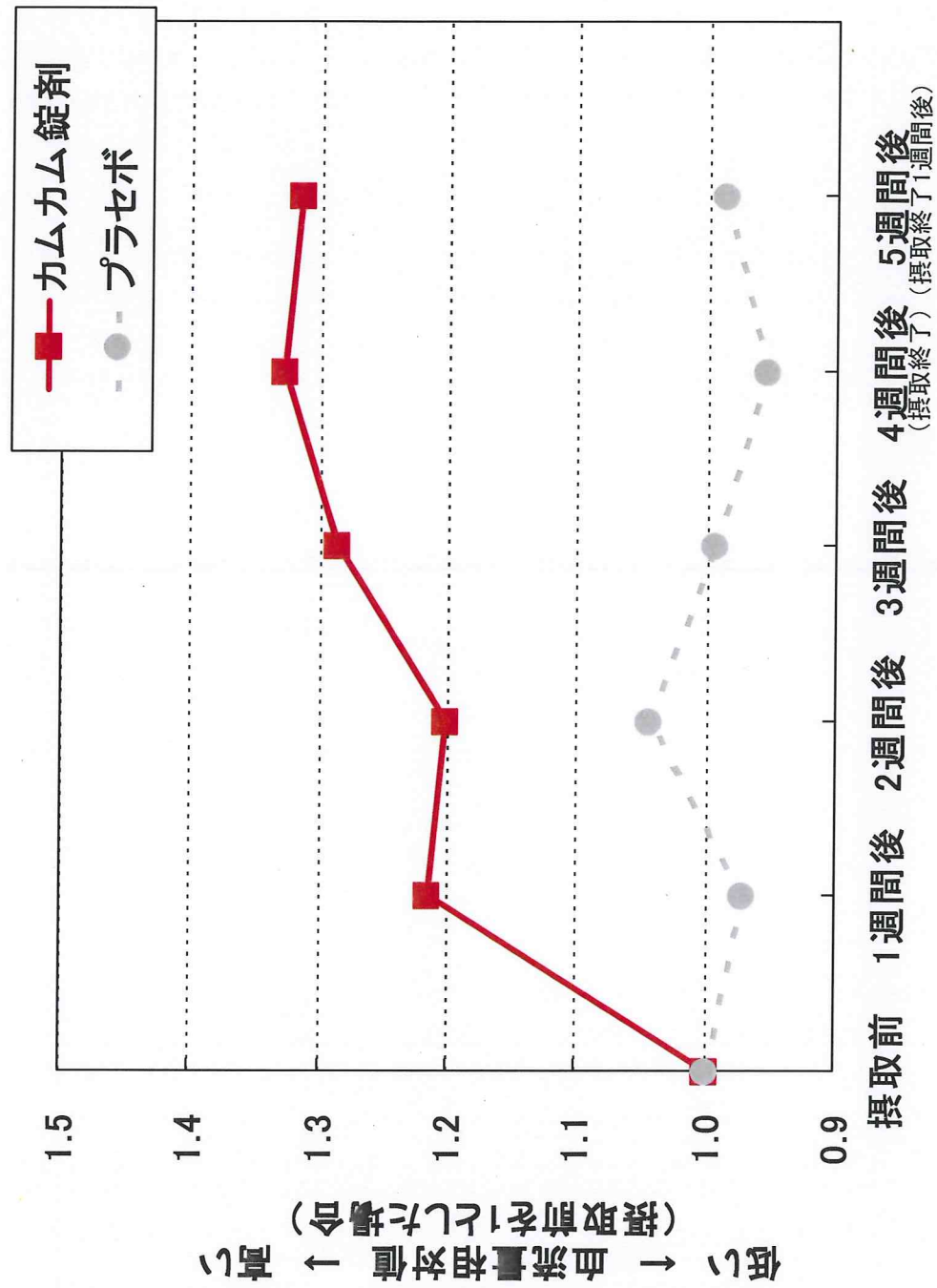
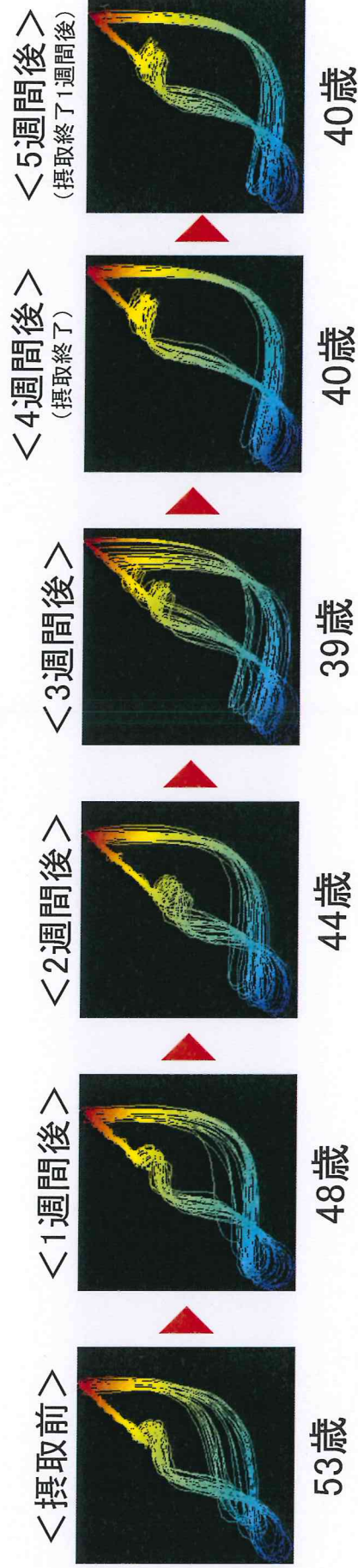
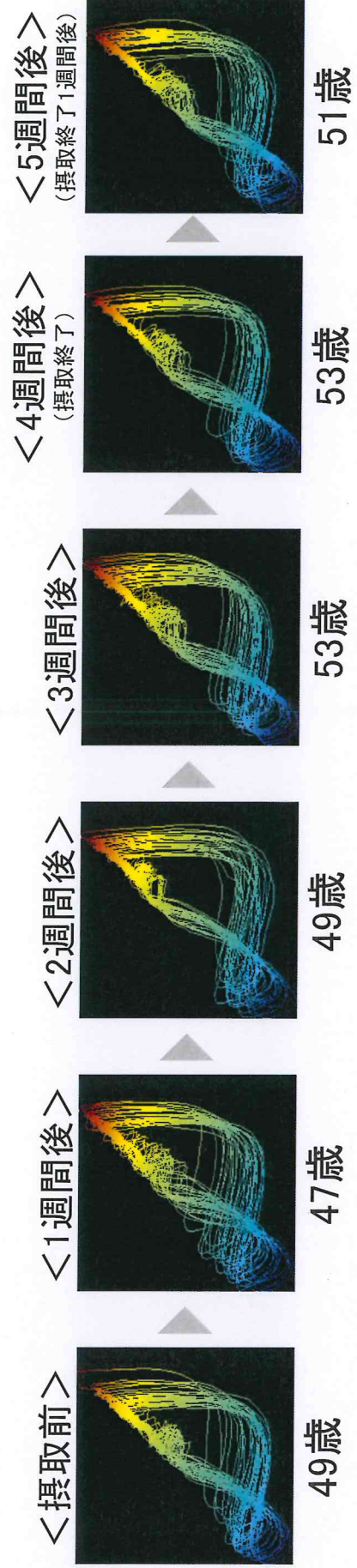


図1 各被験試料継続における血管年齢測定結果(各N=1)
 <カオスアトラクター>

「カムカム錠剤」



「プラセボ」



グラフ2 各被験試料継続摂取における
血管年齢測定結果グラフ(各N=1)

